

旧296号線代替用地内 埋蔵文化財調査報告書

山武郡芝山町井森戸遺跡

成田市東三里塚岩之台（井森戸）2遺跡

山武郡芝山町岩山中袋遺跡

平成15年3月

新東京国際空港公団

財団法人 千葉県文化財センター

旧296号線代替用地内 埋蔵文化財調査報告書

山武郡芝山町井森戸遺跡

成田市東三里塚岩之台（井森戸）2遺跡

山武郡芝山町岩山中袋遺跡



序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告書第454集として、新東京国際空港公団の旧296号線代替用地内道路建設事業に伴って実施した山武郡芝山町井森戸遺跡・成田市東三里塚岩之台（井森戸）2遺跡及び岩山中袋遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、古墳時代の住居跡が検出されるなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また郷土の歴史を理解するための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理までご苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成15年3月25日

財団法人千葉県文化財センター
理事長 清水新次

凡 例

- 1 本書は、新東京国際空港公団による旧296号線代替用地内造成事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県山武郡芝山町岩山字井森戸133番-1他所在の井森戸遺跡（遺跡コード409-014）・成田市東三里塚岩之台128-2・4他所在の東三里塚岩之台（井森戸）2遺跡（遺跡コード211-064）及び山武郡芝山町岩山字中袋2016-12他の岩山中袋遺跡（遺跡コード409-006）である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、新東京国際空港公団の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査と整理作業の実施期間及び担当者は本文中に記述した。
- 5 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁生涯学習部文化財課、新東京国際空港公団、山武郡芝山町教育委員会、成田市教育委員会の御指導、御協力を得た。
- 6 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。
国土地理院発行 1/25,000地形図「新東京国際空港」(N1-54-19-10-1)、「多古」(N1-54-19-10-2)新東京国際空港公団発行 1/2,500都市計画図
- 7 周辺地形航空写真は、京葉測量株式会社による平成14年撮影1/10,000のものを使用した。

本文目次

I はじめに	1	(3) 遺構	8
1 調査の経緯	1	2 岩山中袋遺跡	12
2 遺跡の位置と環境	1	(1) 調査区及び発掘区の設定	12
II 調査の概要	5	(2) 層序	12
1 井森戸遺跡及び東三里塚岩之台		(3) 遺構	12
(井森戸) 2 遺跡	5	3 その他の遺物	14
(1) 調査区及び発掘区の設定	5	III まとめ	16
(2) 層序	5		

挿図目次

第1図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)	2	第7図 1号住居跡出土遺物 (1/3)	10
第2図 遺跡位置図 (1/5,000)	4	第8図 溝状遺構 (1/160,1/40)	11
第3図 井森戸遺跡・東三里塚岩之台 (井森戸) 2 遺跡調査区・発掘区 (1/2,000)	6	第9図 岩山中袋遺跡調査区・発掘区 (1/2,000)	13
第4図 基本層序 (1/40)	7	第10図 基本層序 (1/40)	14
第5図 1号~3号土坑 (1/40)	7	第11図 1号陥穴 (1/40)	14
第6図 1号住居跡 (1/80,1/40)	9	第12図 井森戸遺跡・岩山中袋遺跡出土遺物 (1/3・1/4)	15

図版目次

図版1 航空写真 (平成14年撮影:1/10,000)	図版5 岩山中袋遺跡近景・基本層序・1号陥穴
図版2 井森戸遺跡近景・層序	図版6 井森戸遺跡・岩山中袋遺跡出土遺物
図版3 1号~3号土坑	図版7 1号住居跡出土遺物
図版4 1号住居跡・溝状遺構	

表目次

第1表 主な周辺遺跡	3
------------	---

I はじめに

1 調査の経緯

新東京国際空港公団は、山武郡芝山町字岩山地先において旧296号線代替用地内道路建設事業を計画し、千葉県教育委員会に遺跡の有無を照会したところ、当該地先が山武郡芝山町井森戸遺跡・成田市東三里塚岩之台（井森戸）2遺跡及び芝山町岩山中袋遺跡の一部に含まれることが確認されたため、千葉県教育委員会と協議の結果、事業地区内の埋蔵文化財の取扱いについて記録保存の処置を講ずることとなり、財団法人千葉県文化財センターが発掘調査を実施することとなった。

調査は、次の組織と担当者により実施された。

山武郡芝山町井森戸遺跡・成田市東三里塚岩之台（井森戸）2遺跡

平成14年4月1日～平成14年6月14日

調査事務所長 折原 繁、副所長 石倉亮治

芝山町岩山中袋遺跡

平成14年9月2日～平成14年9月30日

調査事務所長 折原 繁、研究員 永塚俊司

また、整理作業は以下の期間及び組織と担当者により実施された。

平成14年10月1日～平成14年10月31日

調査事務所長 折原 繁、副所長 石倉亮治

2 遺跡の位置と環境

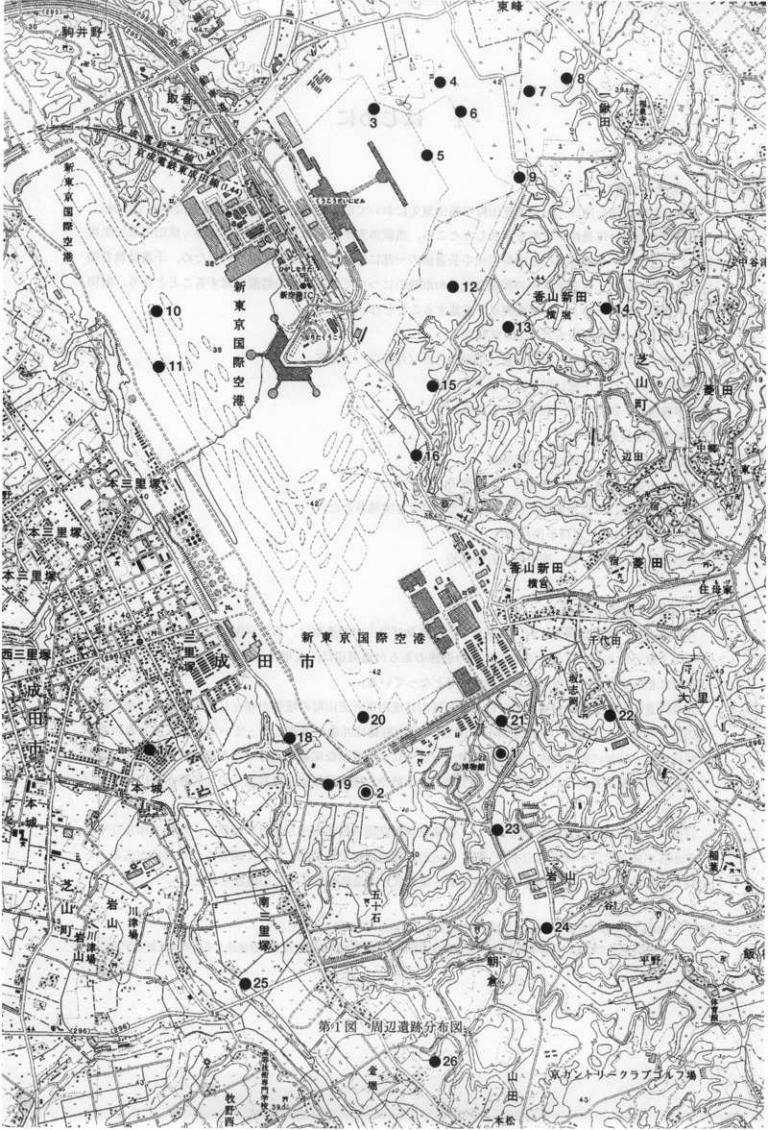
井森戸遺跡・東三里塚岩之台（井森戸）2遺跡及び岩山中袋遺跡は、新東京国際空港の南側の標高41m前後の下総台地北部に位置する。これらの遺跡のある台地周辺は、太平洋に南下する木戸川及び高谷川、印旛沼に北上する根木名川の各水系の分水界となっている。

井森戸遺跡（周辺遺跡分布図1）は、調査区内に成田市と芝山町の境界が存在し、成田市側は東三里塚岩之台（井森戸）2遺跡（周辺遺跡分布図21）、芝山町側は井森戸遺跡となっている。また、井森戸遺跡は昭和57年・58年に財団法人千葉県文化財センターにより成田松尾線（通称はにわ道）の建設に伴い隣接する部分の発掘調査が行われており、縄文時代の土坑や古墳時代後期（鬼高期）の住居跡が検出されている⁽¹⁾。

岩山中袋遺跡（周辺遺跡分布図2）は、新東京国際空港A滑走路南端付近に位置し、昭和54年及び平成4年から平成6年にかけて岩山中袋遺跡（No.2）（周辺遺跡分布図19）として調査された経緯がある。その際、旧石器時代から縄文時代早期（井草式・夏島式）の遺跡であることが確認された⁽²⁾。

注（1）1986.3「井森戸遺跡」『主要地方道成田松尾線Ⅳ』財団法人千葉県文化財センター

（2）1985.3「No.2遺跡・No.10遺跡」『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ』財団法人千葉県文化財センター



第1図 周辺遺跡分布図

双ガントリクラブゴルフ場

第1表 主な周辺遺跡

番号	遺跡名	所在地	時代(時期)	水系	立地・環境	文献
1	井旗戸遺跡	山武郡芝山町新山字井旗戸133番地-1地	縄文(早・前・中・後)	高谷川	台地上、畑、山林	1
2	碧山中段遺跡	山武郡芝山町碧山字中段2016-12地	縄文	高谷川	台地上	2
3	取巻町田戸遺跡 (No.6)	成田市取巻町田戸7711地	奈良・平安	高谷川	台地上	3
4	東海朝寺塚遺跡 (No.81)	成田市東海朝寺塚99-1地	縄文(早・前・中)、弥生、奈良・平安	高谷川	台地上	4
5	古込遺跡 (No.14・No.55・No.56)	成田市古込字古込	旧石器、縄文(早)、奈良・平安	高谷川	台地上	5
6	東海朝寺塚遺跡 (No.62)	成田市東海朝寺塚99地	縄文(早・前・中)、弥生、奈良・平安	高谷川	台地上	6
7	一旗田高兵衛山南遺跡 (No.16)	香取郡多古町一旗田字高兵衛山454-14地	縄文	高谷川	台地上	7
8	一旗田高兵衛山南遺跡 (No.12)	香取郡多古町一旗田字高兵衛山454-22地	縄文	高谷川	台地上	8
9	香山新田中横遺跡 (No.10)	成田市香山新田中横101-2地	縄文	高谷川	台地上	9
10	天旗風丘遺跡 (No.19)	成田市天旗字風丘	縄文	高谷川	台地上	10
11	天旗大塚遺跡 (No.18)	成田市天旗字大塚	縄文(早)	高谷川	台地上	11
12	香山新田中横遺跡 (No.7)	成田市香山新田中横101-2地	縄文	高谷川	台地上	12
13	香山新田金沢台遺跡 (No.15)	成田市香山新田字金沢台	縄文(早・前、中)	高谷川	台地上	13
14	香山新田金仏塚遺跡 k (No.8)	成田市香山新田字金仏塚	縄文	高谷川	台地上	14
15	木の槌形奥遺跡 (No.6)	成田市木の槌字奥195地	旧石器、縄文(早)	高谷川	台地上	15
16	木の槌形台遺跡 (No.5)	成田市木の槌字奥台217地	旧石器、縄文(早)	高谷川	台地上	16
17	三星塚馬場遺跡	成田市三星塚字馬場289-9地	旧石器、縄文(早・前)、古墳、中世	高谷川	台地上	17
18	三星塚御科伏松遺跡	成田市三星塚字御科伏松1-2地	旧石器、縄文(早・前)	高谷川	台地上	18
19	碧山中段遺跡 (No.2)	山武郡芝山町碧山字中段	旧石器、縄文(早・前)	高谷川	台地上	19
20	東三星塚古野台遺跡 (No.3・No.51・No.52)	成田市東三星塚字古野台	旧石器、縄文(早・中)	高谷川	台地上	20
21	東三星塚御科之台(井旗戸) 2遺跡	成田市東三星塚字御科之台	縄文(早・前)、古墳	高谷川	台地上	21
22	旗志岡・尾ヶ谷遺跡	山武郡芝山町大字旗志岡・尾ヶ谷162地	縄文(早)	高谷川	台地上	22
23	上横遺跡	山武郡芝山町碧山字上横1570地	縄文	高谷川	台地上	23
24	古野遺跡	山武郡芝山町碧山字古野1462地	縄文(後)、奈良・平安	高谷川	台地上	24
25	南三星塚高神遺跡	成田市南三星塚字高神256地	縄文(早・中)、古墳	高谷川	台地上	25
26	神ノ台遺跡(2)	山武郡芝山町碧山字神ノ台	縄文(早)、奈良・平安	高谷川	台地上	26

文献

- 1 1965主要地方道成田松尾線V(一部報告済)
- 2 1966東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書V(一部報告済)
- 3 1994新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ
- 4 2000新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ
- 5 1971三星塚、1963新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ(整理中)
- 7 2001新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ
- 8 (整理中)、1966研究紀要(一部掲載)
- 9 1964、1963新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ、Ⅲ
- 10 1971三星塚
- 11 1971三星塚
- 12 1964、1963新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ、Ⅲ(整理中)
- 14 (未調査)
- 15 1961木の槌
- 16 1961木の槌
- 17 1962三星塚馬場遺跡
- 18 1960御科伏松遺跡-麻高大塚組所字空地内埋蔵文化財調査
- 19 新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書V、1967土木保守管理センター等埋蔵文化財発掘調査報告書
- 20 1962三星塚
- 21 1963千歳線埋蔵文化財発掘調査抄録(昭和38年度)
- 22 1992芝山町内遺跡発掘調査報告書
- 23 1965主要地方道成田松尾線V(一部報告済)
- 24 1967千歳線埋蔵文化財発掘調査抄録(昭和38年度)古野・上横遺跡
- 25 1961千歳線埋蔵文化財発掘調査抄録(昭和36年度)
- 26 2002主要地方道成田松尾線ⅡV



岩山中段遺跡

(A) 滑走路

井森戸遺跡

東三墨保岩之台
(井森戸) 2遺跡

第2図 遺跡位置図

1/25,000

250m

新東京国際空港

II 調査の概要

1 井森戸遺跡及び東三里塚岩之台（井森戸）2遺跡

(1) 調査区及び発掘区の設定

井森戸遺跡は、旧296号線代替用地内に成田市と芝山町の境界線が走り、成田市側を東三里塚岩之台（井森戸）2遺跡、山武郡芝山町側を井森戸遺跡と識別されている。今回の調査では、井森戸遺跡に隣接した成田市側の東三里塚岩之台（井森戸）2遺跡の調査面積がきわめて小さいことから、便宜上同一の調査区を設定し、発掘調査を実施した。

井森戸遺跡及び東三里塚岩之台（井森戸）2遺跡の調査区は、旧296号線代替用地の東端で成田松尾線（はにわ道）と直交する付近の長さ約250mの範囲にあたり、調査面積は7,500㎡である。調査区内における発掘区は、世界測地系座標を基準として50m×50mの方眼グリッドを設定し、北から1,2,3,⋯, 西からA,B,C,⋯とし、1A,2B,3C,⋯と呼称した。また、各方眼グリッド内を北西端から南東端にかけて先頭の00グリッドを第1段第1列とし10列ごとに次段の西端に移り、10段10列の100分割小グリッドを設定し、遺構の検出や遺物の取り上げの際の基準とした。

井森戸遺跡は調査対象面積7,437㎡のうち10%に相当する743㎡の上層と、2%に相当する149㎡の下層それぞれについて確認調査を実施した。上層の確認調査は、幅2mのトレンチを21本延べ371.5m分を調査区範囲に対応して配置した。下層の確認調査では、上層確認の際に設定したトレンチ内に2m×2mの確認調査発掘区38か所を設定して武蔵野ローム層上面までの遺物の有無を確認した。また、下層確認発掘区の任意の地点2か所で層序の観察を行った。

東三里塚岩之台（井森戸）2遺跡は、調査対象面積63㎡の上層確認調査と2m×2mの下層確認発掘区1か所を設定し、武蔵野ローム層上面までの遺物の有無を確認した。

その結果、上層・下層ともに遺構・遺物は検出されず、確認調査のみで調査は終了した。

(2) 層序

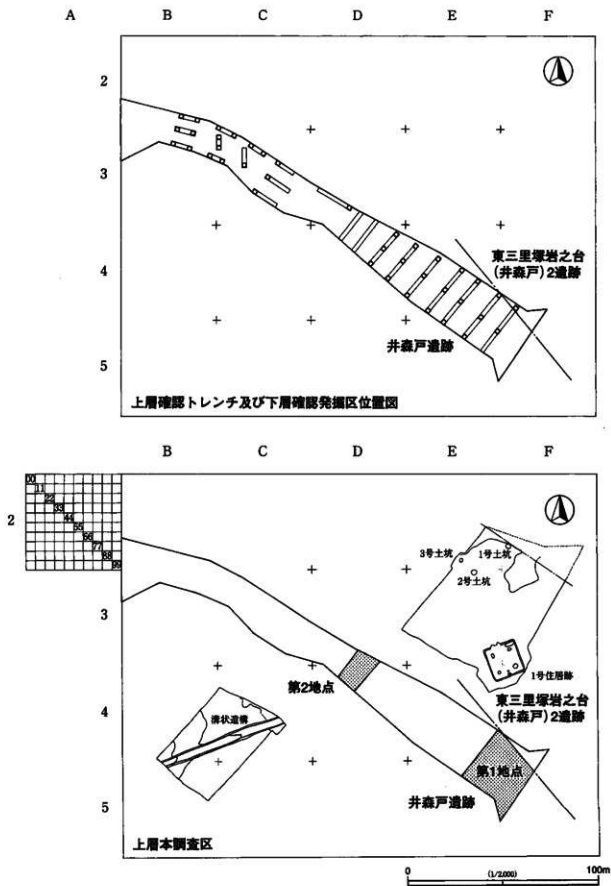
井森戸遺跡の層序は、3C-00・5E-07各グリッドの上層確認トレンチ内に設定した下層確認調査発掘区において土層の堆積状況を観察した。土層の観察面は、いずれも2m×2mの発掘区南東壁面を使用した。

それぞれの地点の土層については、表土層より下層に向けて順次分層可能な層位について第1層、第2層…とし、それぞれについて「下総台地における立川ローム層の層序区分」における検討結果に基づき土層の観察を行った。

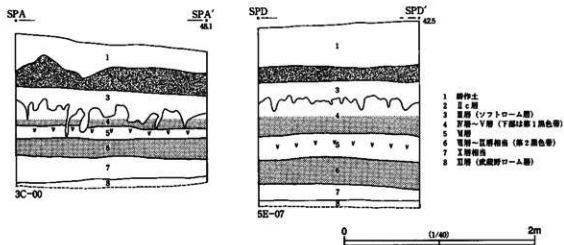
3C-00グリッド及び5E-07グリッドでは、第1層は耕作土層、第2層はⅡc層、第3層はⅢ層ソフトローム、第4層は上半がクラック部を含むⅣ層ハードローム、下半がⅤ層第1黒色帯、第5層はガラス質微粒子を多量に含むⅥ層始良丹沢パミス、第6層はⅦ層～Ⅷ層の第2黒色帯、第7層は立川ローム最下層のⅩ層にそれぞれ相当する。

第6層のⅦ層～Ⅷ層間には土色や土質に明瞭な差異が認められず、第2黒色帯上部及び下部と同層のⅦ層について分層が困難であった。

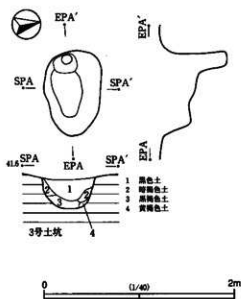
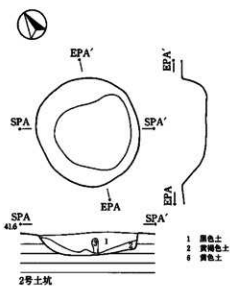
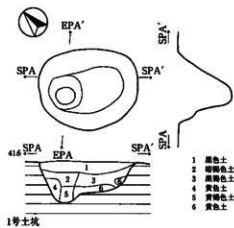
また、第7層のⅩ層についても、本来分層されるⅩa層・Ⅹb層・Ⅹc層の明瞭な差異が認められず分層できなかった。なお、第8層以下は武蔵野ローム層となる。



第3図 井森戸遺跡・東三里塚岩之台(井森戸) 2遺跡調査区・発掘区



第4図 基本層序



第5図 1号~3号土坑

(3) 遺構

縄文時代

縄文時代の遺構は、井森戸遺跡本調査第1地点に土坑3基が検出された。

1号土坑

規模は、開口部の長軸径1.04m×短軸径0.88m、深さ0.44mの平面楕円形である。伴出する遺物は縄文時代中期阿玉台式の土器片であるが覆土上部の出土であり、本遺構の時期を特定する根拠とはしがたい。開口部の長軸方位はN-48°-Wで、北西端に柱穴状のピットがある。覆土の状況は、緩やかな皿状の自然堆積である。特定の用途を想定できるような焼土等の残留物も検出されていない。

2号土坑

規模は、開口部の長軸径1.16m×短軸径1.08m、深さ0.24mの平面楕円形である。開口部の長軸方位はN-25°-Eで、覆土の状況は、緩やかな皿状の自然堆積である。特定の用途を想定できるような遺物や焼土等の残留物も検出されていない。

3号土坑

規模は、開口部の長軸径0.88m×短軸径0.60m、深さ0.32mの平面楕円形である。開口部長軸の方位はN-78°-Wで、北西端に柱穴状のピットがある。覆土の状況は、緩やかな皿状の自然堆積である。1号土坑と形態は似ているが特定の用途を想定できるような遺物や焼土等の残留物も検出されていない。

古墳時代

古墳時代の遺構は、事業地東端の通称はにわ道に隣接する地点で後期鬼高期の住居跡が1軒検出された。

1号住居跡

規模は東西辺約6.8m、南北辺約7.0mでカマド煙道部を含む主軸長は約7.4mである。

1号住居跡はカマドが2か所あり、2号カマド廃絶後山砂等のカマド構築材を取り出した後1号カマドを構築した状況が確認された。主軸の方位はN-15°-Wでほぼ北カマドの配置をとる。カマドの東には貯蔵穴があり、2号カマド使用時に併設されていた貯蔵穴を1号カマドを構築した際にカマド寄りに拡張した痕跡も貯蔵穴セクションから確認された。掘方の観察からこの拡張部分も貯蔵穴として機能していたことが明らかであり、既存の貯蔵穴部分は第6図SPG-SPG'セクション図右半分の観察により埋め固められていたことが判明している。同セクション図左半分の空白部は粒子の粗い黒色土で充填されており、右半分の意図的に埋め固められた土層とは明らかに異なり、時間差をもって埋没したことが考えられる。

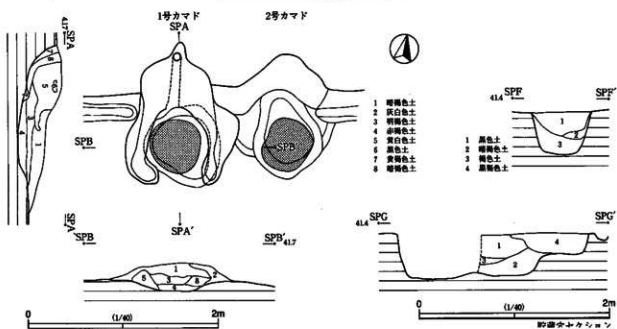
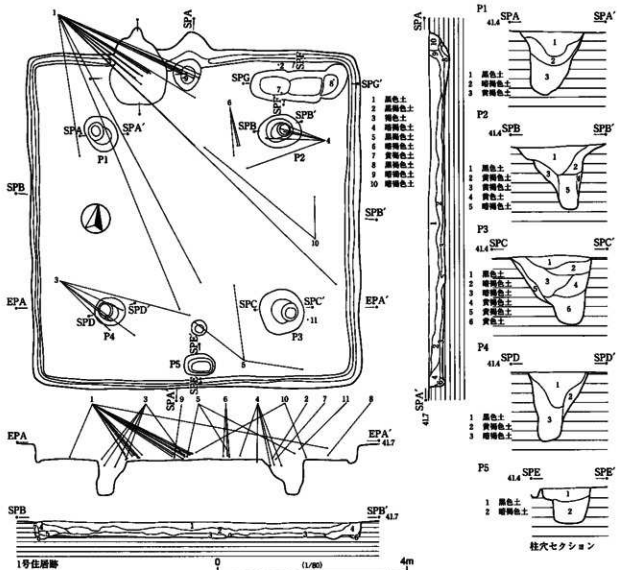
出土遺物は比較的少量で小破片として散在しており、廃絶時に使用可能な土器類は持ち出されたものと考えられる。

覆土は平均約38cmで堆積状況も自然堆積と考えられ、徐々に埋没した状況が確認された。

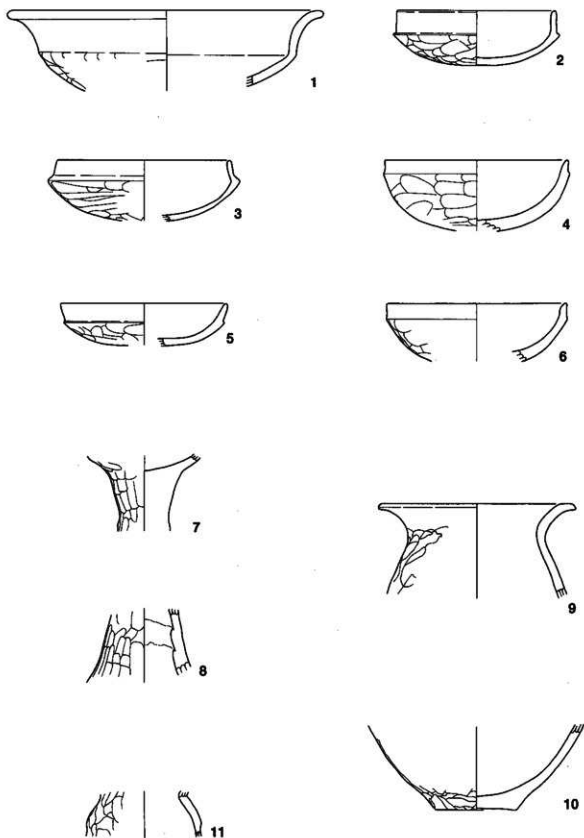
また、柱穴P1・P3の土層堆積状況は抜柱後の自然堆積と思われるのに対して、P2・P4は柱根部に相当する堆積土(P2は第5層、P4は第3層)が他の柱穴内堆積土よりもしまりの良い暗褐色土となっており、柱根腐植土または抜柱直後の埋土と思われる痕跡を残している。P5は位置から見て出入口の施設おそらく梯子穴である可能性が高い。

出土遺物

第7図1～11はすべて井森戸遺跡1号住居跡出土の土器である。



第6図 1号住居跡



0 (1/3) 15cm

第7图 1号住居跡出土遺物

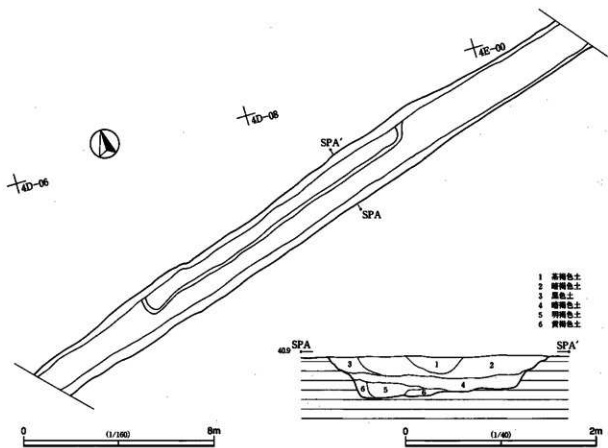
1は土師器の高坏の口縁部で、破片は1号カマドを中心に一部は対面する南壁付近まで飛散した状態で検出された。口縁部径24.9cm、立ち上がり部2.1cmで坏部外面はヘラ削り、内面はナデ調整。口縁部は坏部後縁から大きく外反して立ち上がる。

2から6は土師器の坏で、2は口縁部径12.9cm、立ち上がり部2.0cm、器高4.5cmで胴部の後縁から口縁部が垂直に立ち上がる。胴部外面はヘラ削り、内面は丁寧なナデ調整。3は口縁部径13.8cm、立ち上がり部1.2cm、器高(推定)4.8cmで、口縁部は胴部後縁から内傾する。胴部外面はヘラ削り、内面は丁寧なナデ調整。4は口縁部径14.7cm、立ち上がり部1.0cm、器高(推定)6.0cmで胴部外面はヘラ削り、内面はナデ調整。口縁部は短く、胴部後縁よりやや外傾して立ち上がる。5は口縁部径13.2cm、立ち上がり部15.0cm、器高(推定)3.3cmで胴部外面はヘラ削り、内面はナデ調整。口縁部は胴部後縁から外傾して立ち上がる。6は口縁部径14.4cm、立ち上がり部1.2cm、器高(推定)7.8cmで胴部外面はヘラ削り、内面はナデ調整。口縁部は胴部後縁から短くまっすぐ立ち上がる。

7・8は土師器高坏の脚部。7は坏部に近い方が広がっており、やや不安定な形状である。坏部内面は丁寧なナデ調整、脚部外面は縦位のヘラ削り。8は内面に輪積み痕を明瞭に残す。脚部外面は縦位のヘラ削り、内面はナデ調整。

9・10は甕で、9は胴部上半で、口縁部径15.6cmで口縁部は頸部から「く」字状に大きく外反する。外面は縦位のヘラ削り、内面は丁寧なナデ調整。10は胴部下伴の底部付近で底部径6.6cm。9よりも胴部径の大きな甕であり、外面はヘラ削り、内面は丁寧なナデ調整。

12は土師器椀で、口縁部及び胴部下伴は欠損。外面は斜め方向のヘラ削り、内面は丁寧なナデ調整。



第8図 溝状遺構

中世

本調査第2地点で検出された溝状遺構は調査区を横切る位置にあり、長さ約26m幅約2mの比較的規模の大きな溝である。覆土中に若干の縄文土器を伴出するが、このあたりの行政区界がたびたび変更となっており、古くは印旛・山武の郡境とも近接しており、こうした境界と関わりのある溝である可能性も考えられる。

2 岩山中袋遺跡

(1) 調査区及び発掘区の設定

芝山町岩山中袋遺跡の調査区は、旧296号線代替用地内の新東京国際空港A滑走路南西端付近の長さ約230mの範囲にあたり、調査面積は3,240㎡である。調査区内における発掘区は、日本測地系座標を基準として50m×50mの方眼グリッドを設定し、北から1,2,3…、西からA,B,C…とし、1A,2B,3C…と呼称した。また、各方眼グリッド内を北西端から南東端にかけて先頭の00グリッドを第1段第1列とし10列ごとに次段の西端に移り、10段10列の100分割小グリッドを設定し、遺構の検出や遺物の取り上げの際の基準とした。

調査は平成14年9月2日から平成14年9月30日までの期間行われ、調査対象面積3,240㎡のうち10%に相当する324㎡の上層と2%に相当する65㎡の下層それぞれについて確認調査を実施した。上層の確認調査は、幅2mのトレンチを36本延べ162m分を調査区範囲に対応して配置した。下層の確認調査では、上層確認の際に設定したトレンチ内に2m×2mの確認調査発掘区17か所を設定して武蔵野ローム層上面までの遺物の有無を確認した。また、下層確認グリッドの任意の地点2か所で層序の観察を行った。

その結果、上層では縄文時代の陥穴1基を検出したが下層では遺構・遺物は検出されず、確認調査のみで調査は終了した。

(2) 層序

岩山中袋遺跡の層序は、5F-90グリッドの上層確認トレンチ内に設定した下層確認調査発掘区において土層の堆積状況を観察した。土層の観察面は、2m×2mの発掘区東壁面を使用した。

表土層より下層に向けて順次分層可能な層位について第1層、第2層…とし、それぞれについて「下総台地における立川ローム層の層序区分」における検討結果に基づき土層の観察を行った。

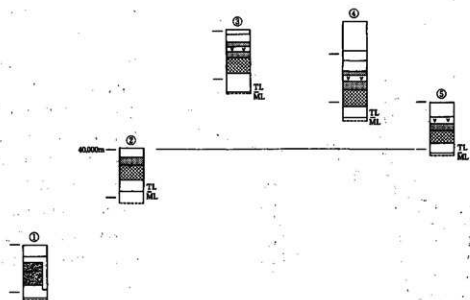
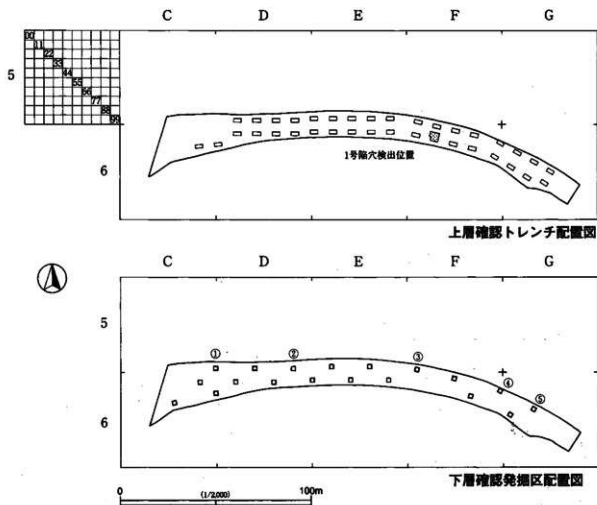
第1・2層は耕作土層、第3層はⅢ層ソフトローム上半部、第4層はⅢ層ソフトローム下半部、第5層はクラック部を含むⅣ層ハードローム、第6層はⅤ層第1黒色帯、第7層はガラス微粒子を多量に含むⅥ層始良丹沢バミス、第8層はⅦ層第2黒色帯上部、第9層は第2黒色帯下部、第10層は立川ローム最下層にそれぞれ相当する。なお、第11層以下は武蔵野ローム層となる。

(3) 遺構

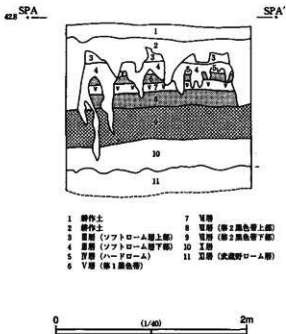
縄文時代

1号陥穴

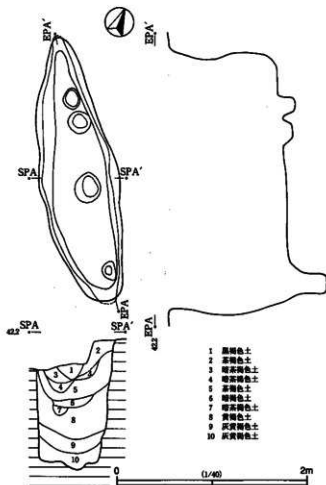
規模は、開口部の長軸径2.40m×短軸径0.88m、深さ1.80mの平面長楕円形である。伴出する遺物はなく時期の特定はできない。陥穴開口部の長軸の方位はN-35°-Wで、覆土の状況は緩やかな皿状の自然堆積である。特定の用途を想定できるような残留物も検出されておらず、徐々に埋没したものと考えられる。陥穴の底部には長軸方向に4か所のピットがあり、南東端のピットが最も深くになっている。



第9図 岩山中袋遺跡調査区・発掘区



第10図 基本層序



第11図 1号陥穴

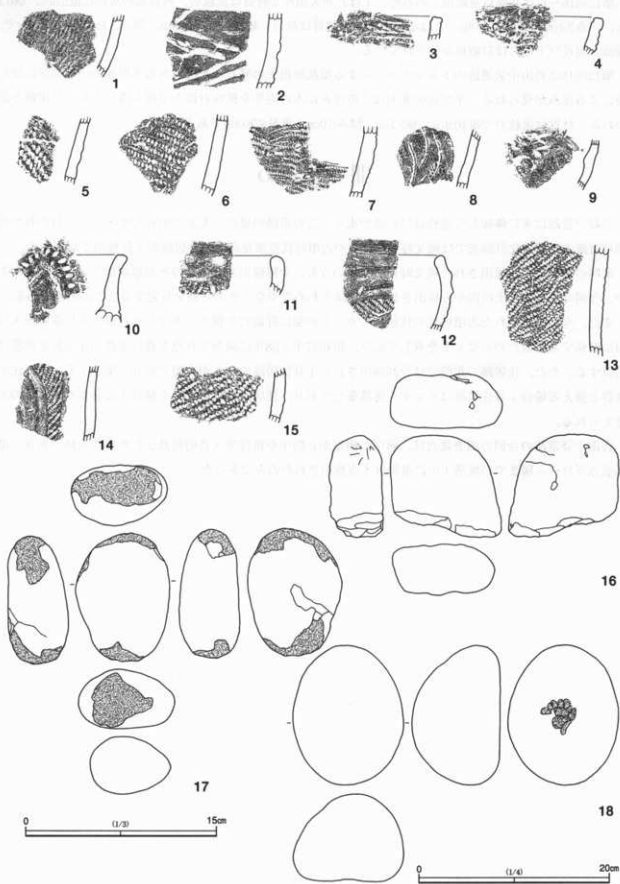
3 その他の遺物

縄文時代

縄文時代の土器はすべて井森戸遺跡出土のものである。

第12図1は早期熱糸文系土器で縦位のRL縄文が見られる。2は沈線文系土器でいずれも竹管背面による太めの沈線が数本単位で交互に斜行する田戸下層式土器。3～8は前期前半の土器。3・4は口縁部付近で、3は緩やか波状口縁に沿って半截竹管による平行沈線が横方向に走り、4は口唇部付近まで大粒の斜行縄文が見られる。5は4と同様大粒の斜行縄文が見られる。8は貝殻腹縁による三日月状の刺突を疎らに施文している。6は斜位のRL縄文が見られ、7は繊細な縄文が重なるように横方向に施文されている。3～7は黒浜式土器。8は胴部の小片のみであるため特定しがたいが興津式・浮島式相当の土器。

9～15は中期の土器で、9は1号土坑出土の中期初頭土器の口縁部付近で口唇部に僅かな突起と、その脇から垂下する粘土棒を芯として粘土帯で包む陸帯の痕跡が見られることから阿玉台式土器の中でも古式の範疇に入るものと考えられる。10は阿玉台式土器の耳状突起で、突起部の外縁陸帯上部には細い竹管背面による連続刺突と陸帯下端に沿って半截竹管の先端を使った1条の結節沈線文が見られる。11～15は加曾利E式土器で、11は細い沈線で囲まれた区画内をRLの縄文で充填しており、12は口縁部付近の沈線で囲まれた楕円区画の中をRL縄文で充填し、その外側にやや幅広い磨消文が見られる。13は節の粗いRL縄文が斜行し、14は細かいRL縄文帯に沿った沈線とその内側の磨消文が見られ、沈線と磨消文の境は微隆起線となっている。15は節の粗いRL縄文が斜行する。



第12図 井森戸遺跡・岩山中袋遺跡出土遺物

第12図16～17は井森戸遺跡出土の石器。1は石斧欠損片で材質は流紋岩、残存部の規模は縦5.3cm、横6.1cm、厚み3.4cm、重量124.18g。2は小型の蔽石で材質は砂岩、縦6.7cm、横4.9cm、厚み3.1cm重量137.07gで、縁部上端及び下端には打蔽痕が残されている。

第12図18は岩山中袋遺跡のトレンチャーによる攪乱層出土の磨石。光沢のある平坦面の中央部分には打蔽による窪みが見られる。平坦面の光沢はこの窪みに木の実等を挟み石皿上で摺り潰した際の使用痕と思われる。材質は流紋岩で縦10.9cm、横8.7cm、厚み6.9cm、重量878.09gである。

Ⅲ まとめ

井森戸遺跡は東に隣接して通称はにわ道が走り、この道路の建設に先立つ昭和57年・58年に行われた井森戸遺跡の埋蔵文化財調査では縄文時代の土坑や古墳時代後期鬼高期の住居跡が5軒検出されている。

前回の調査の際に検出された縄文時代の土坑のうち、今回検出されたものと形態が似ているものもあるが、今回の調査では土坑内から検出された遺物はきわめて少なくその時期を特定することは困難である。

また、今回検出された古墳時代の住居跡もカマドの脇に貯蔵穴を備え、カマドと対面する位置に出入り口に関係する施設のためのピットを有しており、昭和57年・58年に調査された井森戸遺跡の住居跡と形態は酷似する。ただ、住居跡の規模では今回検出された1号住居跡のほうが大型であり、関連する一連の住居跡群と捉える場合1号住居跡はカマドを再構築しており、住居の性格の違いを検討する必要があるものと考えられる。

岩山中袋遺跡の今回の調査地点は、層序の観察から削平や耕作等人為的攪乱が行われた痕跡があり、現地表以下ローム層までの堆積土中に遺物は1点検出されたのみであった。

写 真 图 版





井森戸遺跡近景
(E→W)



井森戸遺跡層序
3C-00
(W→E)



井森戸遺跡層序
3C-00
(W→E)



1号土坑



2号土坑



3号土坑



1号住居跡



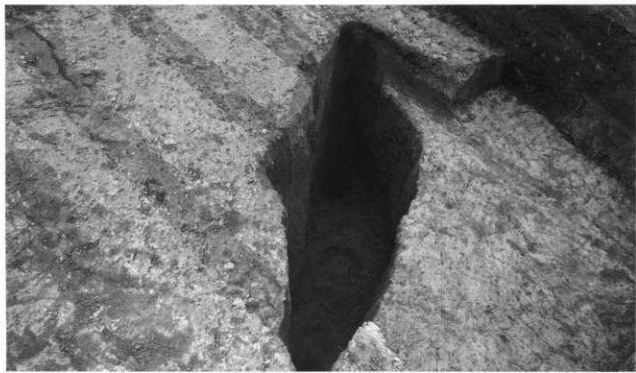
溝状遺構



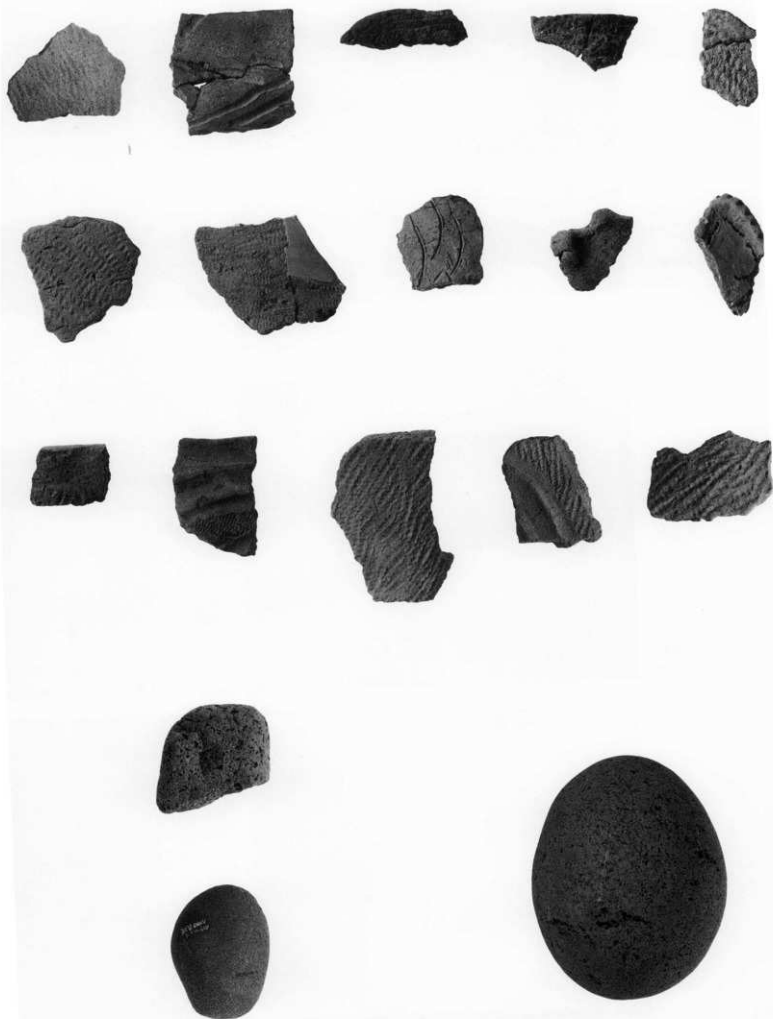
岩山中袋遺跡近景
(E→W)



基本層序
(E→W)



1号陥穴





抄 録

ふりがな	きゅう296ごうせんだいたいようちないまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしよ							
書名	旧296号線代替用地内埋蔵文化財調査報告書							
副書名	芝山町井森戸遺跡・成田市東三里塚岩之台(井森戸)2遺跡・芝山町岩山中袋遺跡							
巻次	454集							
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告							
シリーズ番号								
編著者名	石倉亮治							
編集機関	財団法人 千葉県文化財センター							
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809番地 2							
発行年月日	2003年3月25日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
井森戸遺跡	山武郡芝山町 岩山字井森戸	409	014	35° 44' 18"	140° 24' 15"	20020405～ 20020614	7,437㎡	旧296号 線代替用 地の道路 建設に伴 う事前調 査
東三里塚岩之台(井森戸)2遺跡	市東三里塚字 岩之台	211	064	35° 44' 18"	140° 24' 16"	20020405～ 20020614	63㎡	
岩山中袋遺跡	芝山町岩山 字中袋	409	006	35° 44' 18"	140° 23' 30"	20020902～ 20020930	3,240㎡	
所収遺跡名	種別	種別	主な遺構		主な遺物		特記事項	
井森戸遺跡 (東三里塚岩之台(井森戸)2遺跡)	包蔵地	縄文時代 古墳時代 中世	土坑(縄文時代) 住居跡(古墳時代) 溝(中世)		縄文土器・石器 土師器		縄文時代 古墳時代 中世	
岩山中袋遺跡	包蔵地	縄文時代	陥穴(縄文時代)		縄文時代石器		縄文時代	

千葉県文化財センター調査報告第454集

旧296号線代替用地内埋蔵文化財調査報告書

—山武郡芝山町井森戸遺跡・成田市東三里塚岩之台
(井森戸) 2遺跡・山武郡芝山町岩山中袋遺跡—

編 集 財団法人 千葉県文化財センター
発 行 新東京国際空港公団
千葉県成田市木の根字神台24番地
新東京国際空港内
財団法人 千葉県文化財センター
千葉県四街道市鹿渡809-2
印 刷 株式会社 ラ イ フ
千葉県成田市東和田595
